

いしかわ はるいち  
株式会社芳樹園 代表取締役 石川 治彦 氏

## 花と緑に関わる事業を通して 安らぎと憩いの空間を提供したい



### PROFILE

1964年生まれ、新潟市出身。高校卒業後、東京の岩城造園株式会社に入社し、造園の仕事について一から学ぶ。6年間修業した後、芳樹園に入社。造園、園芸卸売、総務関連などさまざまな仕事を経験し、10年前に代表取締役就任。新潟商工会議所では1号議員、商業部会常任幹事を務める。

●その他の役職

一般社団法人 日本庭園協会 総務委員長

86年の歴史を持つ芳樹園は、造園、植物・園芸用品の卸売、グリーンレンタル、フラワーショップ経営など、花と緑に関わる事業を展開する企業。さまざまな事業や活動を通して、お客様のために、そして緑あふれる地域づくりに貢献していきたいという石川社長に、お話を伺いました。



株式会社芳樹園

〒950-8741

新潟市中央区愛宕3丁目1番地1

TEL : 025-284-7876

<https://www.hojuen.co.jp>



新潟に来てくれた人に、美しいと思ってもらえる庭を作りたい。そういう庭を育てていける人たちが地域に増えてくれることが私の夢です

## 日本の庭を表現、管理できる会社で在り続けることが大切

昭和14年創業の芳樹園は、石川社長の祖父が露天商として植木を販売したのが始まり。その後、会社を興した2代目が造園業を始め、時代とともに植物に関わるさまざまな事業を展開してきた。「当社はもともと造園業を基本としていて、新潟県内の企業や個人のお客様の庭を多く手掛けています。父は庭師といってもいいほど造園の仕事が大好きな人で、造園で全国に通じるような存在になりたいと話していました」と石川社長。現在は植物・園芸用品の卸しが売上の主力だが、「日本庭園というジャンルをいつまでも忘れず、数寄屋に似合う庭を表現できる、管理できる会社で在り続けることが大切だと思います」と話す。

## 見本市はコミュニケーションの場。 “和顔愛語”が会社の指針

今年で49回目となった「芳樹園総合園芸用品見本市」は、年1回開催する大切なイベント。園芸店や生花店、小売販売店など業者向けの見本市で、全国のメーカーの商品が多数展示される。「この見本市はお客様同士、メーカー同士、そして当社とのコミュニケーションが図れる大切な場所。コロナ禍で中止にした年もありましたが、face to faceというのはとても大事なので復活させました」。

こうして長年に渡り実績と信頼を積み重ねてきた同社が指針としているのが、社是の信条の一つ「わげんあいご和顔愛語」の精神だという。「“和顔愛語”というのは和やかな笑顔と思いやりのある言葉を使う、



本社社屋にある日本庭園。実績を積み重ねてきた造園業が会社の礎となっている。



石畳作りの作業を行う住宅の造園工事。

つまり優しい心で日々生きようという意味だと思います。商売というのは波もあるし、辛いこともあります。それでもこの精神で何事も進めなければいけないと思っています」。

## お客様の感性に響く商品を、 ネット販売を通して販路開拓へ

新潟商工会議所では商業部会の常任幹事を務める石川社長。「異業種の方々の集まりなので勉強になるし、情報交換の場にもなっています。仲間が増えるというのも商工会議所の活動に参加するメリットではないでしょうか」。

時代の流れにより大規模な庭を作る個人客は減少しているが、「庭の良さを伝え、技術者を地域に残すことが当社の一つの使命。そして美しい庭を見に来てくれる場所に新潟がなってほしいので、そのお手伝いをしていきたいです。また、卸売業としてはお客様の感性に響く商品を扱う会社だと思ってもらうことが大切で、そこから我々と感性が近いお客様を県内外に増やしていければと思います」。近年はネット販売にも力を入れ、時代に即した販路開拓を進める同社。植物を通じて人々の暮らしを彩る事業をこれからも続けていく。



芳樹園総合園芸用品見本市では、講師を招いた特別講演会も行われる。



観葉植物を中心に販売する「LEAFS meike Hobby Shop HELLO」。家族連れや若い世代のお客様が多いという。